

# 健康通信

## かんせん 乾癬の新しい治療

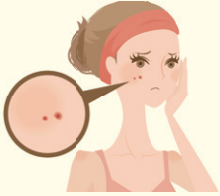


皮膚科部長医師

菅原 京子

### 乾癬とは

乾癬という病気は、かさかさした銀白色のかさぶたがついた、盛り上がった紅斑が全身に出る病気です。命にかかわる病気ではありませんが、かゆみやかさぶたが落ちるなど皮膚症状のつらさだけでなく外見上精神的ストレスを感じるなど、患者さんの生活の質(QOL... Quality of Life)を低下させます。人から人へうつる病気ではありません。



乾癬という病気になじみのない方も多いと思いますが、1000人に1〜2人、例えば小牧市は人口が約15万人なので患者さんは150〜300人程度と推定されます。最近では乾癬と肥満・メタボリックシンドロームとの関連が指摘されるようになりまし。食事の欧米化も進み、患者数は増える傾向にあります。

乾癬には5つのタイプがあります。  
①尋常性乾癬(皮疹のみ)、②乾癬性紅皮症(皮疹が全身に広がって赤みをともなう乾癬)、③関節症性乾癬(関節の痛みをともなう乾癬)、④膿疱性乾癬(発熱や膿疱を伴う重症の乾癬)、

⑤滴状乾癬(風邪などの上気道症状の後に小さな乾癬の皮疹ができる)があります。乾癬の中で一番多いタイプは①尋常性乾癬で、全体の90%を占めます。

### 乾癬の治療

乾癬の患者さんの皮疹の程度も様々です。治療のスタートはまずステロイドやビタミンD3の塗り薬を使用する外用療法です。外用療法で十分な効果が得られない場合には、光線療法(PUBA、ナローバンドUVBなどの紫外線療法)や、レチノイド、シクロスポリンなどの内服薬を開始します。外用療法、光線療法、内服療法が今までの治療の基本でした。

### 乾癬の新しい治療

関節リウマチなど他の病気で使用されていた新しいタイプの薬(抗体製剤)が、2010年から乾癬の治療に使用できるようになりました。いままでの治療で改善が見られない場合や関節症性乾癬に選択肢となります。2010年アダリムマブ、インフリキシマブ、2011年ウステキヌマブ、2015年セクキヌマブ

という薬が使用できるようになりました。乾癬を引き起こす原因となるサイトカインに直接作用し、その働きを抑えます。投与方法は静脈注射や皮下注射、投与間隔は2週間〜12週間と様々です。皮膚の症状が90%以上改善する方も多く非常に効果は高い薬です。しかし、残念ながら一部の人には効きません。



デメリットとしては免疫に関わるサイトカインを抑えるため、感染症にかかりやすくなることがあります。また薬剤費が高額なため、高額療養費制度を利用できますが、加入している健康保険に申請が必要です。

治療を受けるには、投与が可能な医療機関で乾癬の重症度をチェックし、感染症や悪性腫瘍などにかかっていないかスクリーニング検査をうけます。投与が可能であれば、患者さん一人ひとりの病状と生活状況に応じて治療薬を選択します。